

コース名：メディア変換の方法

ーマルチメディア・基本の基本ー

(大作 勝)

対 象：教員一般、入門段階、経験は不必要

目 標：大学等の授業において、教材の電子化をどのようにすすめることができるかを理解し、電子化教材開発が自分自身でできるようになる

研修時間：2日

研修内容（研修方法）：

導入（講義）

- ・ アナログデータとデジタルデータ
- ・ 旧メディアと新しいメディアのつながり
- ・ ファイルの大きさとその扱い

利用形態（講義と実習）

- ・ 研究資料の電子化
- ・ 授業・講義資料の作成
- ・ 論文の作成
- ・ 報告書の作成
- ・ 学会予稿の作成
- ・ ウェブページの作成

利用計画の立案（実習と討論）

- ・ マルチメディア教室での講義資料の位置づけ
- ・ 利用形態の選択と配置
- ・ 材料の選択とページのデザイン

研修評価の観点：

- ・ デジタルデータとアナログデータの違いが理解されたか
- ・ ファイルの大きさは何によって決まるかが理解されたか
- ・ 利用計画の立案がどれだけ具体的になされたか

ラショナル：

大学等の教育環境は大きく変わり、いわゆるマルチメディア教室が急速に整備されつつある。またキャンパス内のネットワーク環境が急速に整備され、電子メールやウェブが授業に利用されている。

例えば、

- 1) 授業中に写真教材をテレビモニタへ提示したい、
- 2) 学会のレジメや報告書の中に写真資料を2、3枚貼り付けたい、
- 3) 自分でホームページを開き、そこに写真を貼り付けたい、
- 4) 印刷文書をテキストファイルにして、整理したい。

というような欲求にかられることがある。

これらは全てメディア変換という、もっとも基礎的・基本的な事柄と関係した技術であるが、この簡単な技術の不足が障害となって、学内のマルチメディア化がしばしば阻まれている。

ここではまず自分の手でプリント写真をスキャナーを用いてデジタル化し、得られたデジタル写真を編集加工し、文書に貼り付ける技術を身につける。また印刷文書をデジタル化し、ファイルとして保存する方法を学ぶ。またビデオ動画から静止画を得る方法、デジタルカメラのデータ処理の方法についても学習し、最終的に各自のシラバスに基づいた授業資料5コマ分とホームページ1頁分を作成する。これらの技術は、もちろん報告書作成、論文作成に応用できる。本研修では実習を重視し、どのような場面でどのようなコンピュータソフトを選べばよいかについても学ぶ。

備 考：

ワークショップの形態になるので、人数は20名以内とする。材料として、写真、文書を持参する。
